

令和4年1月15日

お休みの日にお集まりいただきまして恐縮であります。今日はコロナの関係で皆様にお知らせをさせていただきたいということでございまして、お集まりをいただきました。

直近の感染状況をちょっと見ていただきたいと思います。

(資料を提示)

これはご案内のとおりですけれども、1月14日220件、それから今日の数値ですけれども206件ということで若干下がっておりますけれども、ほぼ同様の数値で動いております。5日間で5倍ということで、かなり急激な増加状況ということでございまして、お話し上げたいのは、後ほどグラフで出てきますけれども、週明けにはおそらく過去最高8月26日に出生した515人、これは上回るだろうという予測でございます。入院されている方は約8.8パーセントの方、やはり入院が必要であります。今回のオミクロン株、ほとんどがオミクロン株だというふうに考えておりますけれども、入院が必要な方は少ないのですけれども、例えば透析が必要な方とか、高齢者で持病を持っておられる方とか、あるいは妊婦の方、これはやはり入院をしていただかないと危険でございますので、一定の比率でやはり入院をされる方は出てまいります。現在、病床の使用率でございますけれども、今日朝お知らせしたのは昨日の夜のタイミングで16.6%でありますけれども、今日のお昼の病床使用率は19.3%でございまして20%に迫る状況でございます。

次をお願いします。

(資料を提示)

これが予測でありますけれども、現在206ですね。それから明日日曜日多分少し上がると思っておりますけれども、1月17日月曜日は大体いつも少し下がりますので、実数としてはこれの倍ぐらいの感じですが、出てくる数字は大体下がっています。火曜日はその分も積み上がりますが、おそらく500は超えるだろうというふうに予測をしています。さらに病床使用率も火曜日の段階では30%に迫るか超えるという予測であります。

次のページをお願いします。

(資料を提示)

これは第5波の時の対応です。どういう状況なのかということでございまして、時短の要請とそれから感染者数がどのような関係にあるかということをお話をさせていただきたいと思っております。

感染者数は、実は発表ベースと発症ベース、症状が出た日にちとそれから発表した日にちというのがありますが、感染者にとって重要なのは発症ベースです。発症と時短要請というのがどのように関係しているかと今からお話を申し上げます。

これは第5波のときですけれども、緊急事態措置をかけました時が感染者のピークでありましたけど、それをぐっと下がっているように見えますけれども、実はこの影響は緊急警戒宣言、前の呼び方ですけれども時短要請をしたものが実は感染者の数に影響しているというものでありまして、次のページをお願いします。

(資料を提示)

時短をかけますと、これは近鉄四日市の 21 時台の人流ですけれども、時短をかけましたらやっぱりぐっと人流下がってきています。時短要請するとまず人流が下がるということです。

次お願いします。

(資料を提示)

ちょっと見にくいですが、必要でしたらお手元にもありますから見ていただければと思いますが、先ほど申し上げた発表ベースというのは感染者数というものです。これが黄色のものであります。これはオレンジですね。オレンジのものですけれども、この感染者数というのは、発症した人が何日後に報告をされるのか、これは人によって違いますので、発症しました、2日後にわかりました、3日後にわかりました、4日後にわかりました、とこんな感じですので、重要なのは発症者のピークです。これは報告をされていつそういう症状が出ましたかと後で聞き取りをしてわかってくるのですが、発症者のピークを見ますと、時短要請をしてからほぼ4日後ぐらいに発症者のピークを迎えるということになります。従いまして、時短要請をさせていただく、そうすると人流が減る、そして発症者も減ってくるという関係になっております。

次お願いします。

(資料を提示)

さらにということですが、これは重症入院患者数のピーク、第5波の時でありませぬ。重症入院患者数のピークは新規感染者数のピークの約1週間後ということでありませぬので、時短要請をしてから20日後ぐらい、3週間後ぐらいに重症入院者数のピークはやってまいります。何を申し上げたいかという、時短要請を早くかければかけるほど、このピークの山は下がってくるということでありませぬ。人流が下がりますので。人流が下がると感染確率が下がってピークの山が下がります。今回のピークはいつかということでありませぬけれども、2枚目の資料を見せて頂きますか。8月は515がピークです。これまだ多分伸びてくると思います。感染者は場合によると、1,000を超える可能性もありませぬし、さらにその数を超えてくる可能性もあるだろうというふうに見ております。今回オミクロンは重症化する率はデルタよりも少ない、これはおそらく事実だろうと思います。3割ぐらいじゃないかというふうに言われていますので、重症病床は今使用しておりませぬけれども、感染者数が515の倍、1,500を超えてくると、デルタの時と重症者数の実数は同じになってまいります。1500を超える可能性はあるだろうと思っています。ただ、それが出てくるのは先ほど申し上げましたけれども、まだ2週間先3週間先であります。今から人流を抑えておかないと、重症病床は一杯になってしまうというのが3週間後ぐらいに現実としてやってまいります。県民の皆さんの行動を変えていただければ、ピークが上がってきて重症病床が一杯になることがないかもしれませぬし、一杯になる日が後にずれていくということでありませぬ。さらに怖いのは重症病床だけでなく、一般病床も一杯になってきますと、もうすでに20%になっていまして、東京都では20%を超えると小池都知事は、まん延防止重点措置の要請をするとおっしゃっておられますけれども、三重県はも

う 20%を超えるのは必至、20%です。週明けにはおそらく 30%を超えるというふうに思われます。一般病床が一杯になりますと、それだけで困るといのは当然ありますけれども、コロナ以外の患者の方を受け入れることが困難になってまいります。持病をお持ちの方、入院することができなくなってしまいますので、医療体制相当厳しい状況になって医療を守るというのは別に医療機関で働いている方を守るというわけではなくて、我々一人が病気になるのもちゃんと病院で診てもらえるような状態を守るということでもありますので、そういう状態のために対応していかなくちゃいけないということでもあります。

それを受けまして、私ども週末の状況、それから週明け直後の状況は注視をいたしますけれども、まん延防止等重点措置の要請の準備を進めていきたいと思っております。以前、みえコロナガードの話をさせていただきまして、既に阻止宣言を出させていただいておりますが、この阻止宣言の後は緊急警戒宣言ということでありまして、これも時短要請をしますというふうに申し上げましたが、緊急警戒宣言ではなくて法律に基づきます、まん延防止等重点措置を考えていくことを今予定しております。従いまして、まん延防止等重点措置を要請するためには、県内でまん延防止等重点措置対策検討会議を開く必要がございますが、早ければ週明けにもこの会議を開くことを検討しているところでございます。そこで専門家のご意見を伺いまして、要請をするかどうかを最終的な決定をいたします。まん延防止等重点措置の適用に時間がかかる場合には、県独自の時短ということも考えていきたいと思っております。いずれにしましても、ピークをどこまで下げられるかが県民の皆さんお一人お一人の命を守るということになりますので、行動をぜひ変えていただきたい。外出については、不要なものについては控えていただければというふうに思っておりますし、また、お酒を飲んでマスクを外してしゃべるといことは、お止めいただければというふうに思っているところでございます。

私からは以上です。